特集

稲作における担い手の労力軽減・生産性向上のために！

～「鉄コーティング直播」「密苗播種・移植技術」の取組み～

ＪＡ全農福島は、担い手の労力軽減・生産性向上のために、「鉄コーティング直播」「密苗播種移植」を推奨しています。

11月10日には、ＪＡ全農福島農業機械センター敷地にてクボタ試乗展示会を開催し、その中で鉄コーティング直播栽培技術の紹介や、直線キープ（ＧＳ）田植機の実演を行いました。また、11月28日には密苗播種・移植実演会を会津若松市で開催し、密苗技術の研修および密苗仕様田植機による実演会を行いました。

【鉄コーティング直播技術について】

鉄コーティング直播栽培は、鉄粉を浸種した種子にコーティングし、代かきした水田土壌の表面に播種する方法です。

・移植栽培と比べ、育苗作業・苗運搬が不要で10ａあたり約６割の労働時間短縮

・資材費や労働費などの削減が図られ、約２割のコスト低減

【密苗播種・移植技術について】

密苗とは、育苗箱あたりの乾籾播種が通常１００～１５０ｇのところ、２５０～３００ｇと高密度で播種を行い、慣行法と同じように３～４本ずつ精密に掻き取り、これまでの田植えと同様に正確に移植する技術です。

※水稲30haで、乾籾播種量を慣行１２０ｇ／箱、密苗移植２５０ｇ／箱とした場合

・育苗箱数が約4,５００枚→約1,８００枚に低減（50株植で10ａあたりの使用箱数が約６箱に）

・育苗箱、培土、ハウス資材の費用が約５割削減。播種および苗運搬時間が約５割削減

【密苗田植機について】

ヤンマーでは密苗仕様田植機を平成28年12月より販売を開始しております。

密苗仕様田植機では、密苗・慣行苗どちらも植えつけが可能です。

※既存のヤンマー田植機は別途組付キットに組み替えることにより密苗の移植が可能ですが、型式によっては取り付けできません。

※既存の播種機を高密度播種対応にするため、一部部品交換及び播種ホッパーが別途必要となります。

詳細については、最寄りのＪＡ農機センターへお問い合わせください。

▲ヤンマー密苗田植機

▲クボタ鉄コーティング直播機

▲28日ヤンマー密苗実演会

▲10日クボタ実演会
（写真は直線キープ機能付田植機）

平成29年 年頭のごあいさつ

全国農業協同組合連合会福島県本部
運営委員会会長
大橋　信夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃よりＪＡ全農福島の組織運営・事業活動に格別のご協力を賜り、心よりお礼申しあげます。

昨年は、本県では合併基本構想に基づく新生４ＪＡ、ふくしま未来、福島さくら、夢みなみ、会津よつばが誕生しました。第39回ＪＡ福島大会決議であります「新生ＪＡの機能発揮による震災復興と未来につなぐ協同の実践」を推し進め、ＪＡ全農福島を含め、ＪＡ福島五連は、その新生ＪＡへ徹底した支援を行い、本県農業の早期復興に取り組んで参ります。

また昨年は改正農協法が施行され、ＪＡグループは政府より農業所得増大に向けた取り組み強化への改革を強く迫られております。本来、改革とは政府に言われるまでもなく、自らの意思で取り組むものであり、ＪＡグループは、あくまで自己改革の取り組みに邁進して参ります。ＪＡ全農福島も生産流通面における、より良い生産資材を１円でも安く生産者の皆さまへ供給し、お預かりする農畜産物はその販売のノウハウを十分に発揮して１円でも高く販売できるよう努め、ＪＡ全農福島職員一丸となり、農業生産の拡大、農業所得向上、地域の活性化の実現に向け、努めて参ります。皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとって佳き年となりますよう、お祈り申しあげ、新年のご挨拶と致します。

全国農業協同組合連合会福島県本部
県本部長
猪股　孝二

新しい年を迎え、謹んでご挨拶申しあげます。

皆様には、日頃よりＪＡグループ福島の経済事業、ＪＡ全農の販売・購買事業につきまして、多大なるご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

本年3月で東日本大震災・原発事故から6年目を迎えます。復興はまだまだ途半ばではありますが、全農は引き続き今年も営農再開の支援や県産農畜産物のブランド回復への取り組みに全力で取り組んでいきます。

さて、今年はもう一つの重要な取り組みがあります。「ＪＡグループの自己改革の実践」を加速させることです。

昨年農協法が改正され、全農に対して農業所得の向上のため事業戦略を明確に立てることが求められました。今次3か年計画の中では、マーケットインへの事業転換やトータルコストの低減、多様化するニーズへの柔軟な対応を柱とする事業戦略を織り込み、具体的な施策をすでにスタートさせています。これらの展開を加速させて成果を上げていくのが本年の重要な取り組みとなります。

われわれの事業改革は、政府等の外部から指示されるものではなく、自らの意思で実行していくものです。「生産者の所得増大」を実現するためにどんな汗をかくのが良いのかを常に考えながら、全農としての機能を最大限に発揮していきます。生産者やＪＡにとって無くてはならない存在となるように努力していきますので、ご協力お願いします。

最後に、新しい年が皆様にとって、また本県の農業にとって飛躍の年となりますことを祈念申しあげ、年頭のあいさつとさせていただきます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。